

令和5年度美作保健所運営協議会議事録

日時：令和5年11月16日（木）

13:30～14:50

場所：津山保健センターホール
（オンライン併用）

1 開会 保健所長挨拶

2 議事

（1）会長及び副会長の選出

会 長：野口 薫 委員（津山市副市長）

副会長：宮本 亨 委員（津山市医師会長）

大村 晃一 委員（勝田郡医師会長）

（2）美作保健所の運営について

①美作保健所・健康福祉部の組織と事務、企画調整情報課

②保健課・勝英地域保健課

③衛生課

④第9次岡山県保健医療計画作成から見てきた圏域の課題等について 資料2 参照

} 資料1 参照

【質疑応答・意見交換】

（委員）

- ・保健医療計画については、やらなければならない課題が変化し明確になってきている。地域医療構想調整会議でも伝えているが、できればへき地医療対策の充実を県にお願いしたい。
- ・母子保健について、新たにかたつむり助産院が開院して歓迎している。保健所としてこの状況をどのようにお考えになっているのかご教授いただきたい。
- ・母子保健全体だが、赤ちゃん訪問を見ると、医療ニーズのみならず福祉ニーズも背後にあると、把握し注意している。保健所として、母子保健対策を進める中で、どのように福祉部局と連携されているのか教えていただきたい。
- ・精神保健だが、いつもお世話になっている。かつて、当事者がフェスティバルを行っていたが最近はどうなっているだろうか。
- ・在宅難病患者支援で、保健所として災害時個別支援計画を作成するとなっているが、自治体が作成する個別計画と重複する部分もあるだろう。我々も苦勞して作成しているが、アップデートに苦慮している。保健所の実態はどうなっているか、うまくいく秘訣を伝授いただきたい。
- ・様々伝えたが、光井所長を中心に保健所の方々には積極的かつ前向きに業務に邁進される姿を見て嬉しく思う。

(事務局)

- ・母子保健について、かたつむり助産院について、地域にありがたいと思っている。この地域に産科がなく津山まで通院するのに距離もある中、産後ケア等で助産師には非常にお世話になっている。地域で助産師の協力を得ながら対応させていただく。母子保健連携会議を予定しているので、積極的に保健所も協力させていただく。
- ・福祉ニーズも増えている。例えば外国の方のお産もあるが、市町村の保健師の方々をはじめ、病院や児童相談所とも連携しながら対応していきたい。
- ・「元気になろうやフェスタ」は毎年開催している。昨年度も当事者の体験発表も好評だった。今年度も12月9日(土)湯郷地域交流センターで予定している。
- ・難病患者の個別支援計画について、県の方も苦慮している。災害については、危機管理部門とヘルス部門の連携がとりにくいという課題を市町村からも伺っており、毎年1度は必ず情報共有をさせていただいている。去年は2回行った市町村もある。秘訣は難しいが、平時に連携が取れなければ、非常時に連携が取れないので、まずは平時の連携を大切にしている。今年度は食を切り口に災害時の研修を行う予定であり、市町村の危機管理部門の担当者も含めたGWも予定している。平時からできることをこつこつと行うことを大切にしている。

(事務局)

- ・保健と福祉の連携が必要だと感じている。市町村でも苦慮されていることと思う。美作県民局の中でも連携し、市町村の方々と連携していきたいと思う。

(委員)

- ・私たちの活動には保健師・栄養士の存在は不可欠である。保健所支所の保健師・栄養士を減らさないようお願いしたい。また、県下27市町村の中で唯一西粟倉村に栄養士不在で、勝英支所からの応援で成り立っている。西粟倉村の栄養委員も苦労していると思うので、県内どこにも栄養士さんにいていただきたい。

(委員)

- ・自殺対策について、自死遺族が体験を語り合う分かち合いの会をされているが、なぜ死に至ったかというような内容も出るのか。そのような統計データはあるのか。

(事務局)

- ・自殺対策については、基本的には県市町村それぞれ計画を作成して動いている。なぜ死に至ったかという理由は、居住する市町村の規模で限定的なデータとなり、公表できない部分もある。そのため、全国のデータを、JSCP(厚生労働法人指定法人・一般社団法人 命支える自殺対策推進センター)という組織で分析した結果を、県、市町村と情報共有し、傾向を把握し、対策を行っている。
- ・愛育委員・栄養委員・民生委員の方々、住民に近いところで、可能な限り声掛けを行い、何かあれば気付けるような、互助、セーフティーネットを作ることも必要かと思う。